あおもり
町連だより

第209号
平成30年１月発行

青森市町会連合会
TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

明けましておめでとうございます

豊かで住みよいまちづくりへ

地域みんながチカラを合わせて

明けましておめでとうございます。

町会長並びに町会員の皆様には、清々しい希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

加川幸男市町連会長

また、常日頃から町会連合会の事業運営につきまして、ご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

青森市町会連合会においては、基本方針に掲げている「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」の推進に努めてきているところであります。

平成29年度においては、これまで年１回開催していた「市政懇談会」に加え、新たに５地域協議会および37地区連合町会を単位とした「タウンミーティング」を開催し、各地域・各地区における課題や要望について、市長はじめ市の幹部の皆様と意見交換をしたところであります。

また、隔年で開催している「青函ツインシティ交流研修会」を昨年10月25日に青森市で開催し、午前は函館市町会連合会の皆様に「りんごもぎ体験」を、午後は「観光振興について（温泉街の活性化）」をテーマとして、山﨑浅虫町会長から意見発表をしていただき、その後函館市と活発な意見交換をいたしました。

近年、ますます少子高齢化が進展し、人口減少も深刻な状況となっており、地域力の弱体化が危惧されているところであります。

昨年は青森市民生委員児童委員協議会との意見交換会に青森市福祉部の幹部の皆様にもご参画をいただき、三者による連携協力体制を強化していくこととといたしました。

また、昨年新たに開催いたしました「タウンミーティング」においても、地域・地区の課題を市と共有したところであり、市のご支援をいただきながら地域みんながチカラを合わせ豊かで住みよいまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、今後ともより一層の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成30年が皆様にとって、実りある佳き年となりますよう心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

5月30日に30年度定時総会

30年度の青森市町会連合会定時総会は５月30日（水）午後１時から、ホテル青森で開催します。

紙面紹介

2面 29年度除排雪事業説明会
3面 福祉部会が市、民児協と意見交換
29年度青森市表彰受賞者
29年度地域協議会
4面 第40回町内女性の集い
5面 町会女性（婦人）部役員研修会
29年度理事研修会
6面 青函ツインシティ交流研修会
市町連事務所をアウガに移転

■ 29年度除排雪事業説明会 ■

出動指示を見直し

業者への連絡を具体化

市の平成29年度除排雪事業説明会が11月７日（火）、市柳川庁舎で開かれ、市町連から加川幸男会長はじめ29人が出席、市道路維持課の土岐政温雪対策室長が、除排雪作業の出動指示など今年度に見直しを行った点を中心に、除排雪体制の説明を行いました。

29年度の除排雪計画を説明する市の担当者

説明の主な内容は次の通りです。

今年度の除排雪延長は、約1,565キロ。国道にすれば青森～広島間に相当する距離で、宅地造成や道路の新設等により年々増加しています。

除雪の出動基準は、幹線（バス路線、特に定めた主要路線）が、降雪がおおむね10cm以上、かつ、交通の確保が困難と認められる場合、補助幹線（地域内の幹線と幹線を結ぶ路線）・工区（生活道路）は、降雪がおおむね15cm以上、かつ、交通の確保が困難と認められる場合としています。

除排雪の出動の流れは、午前に市内各地区をパトロールし、状況を把握、13時にパトロール会議を開き、出動の可否を決定し、14時に業者へ作業指令を出します。そして21時から翌日７時の間に作業を実施します。作業の出動指示が14時と早めなのは、業者はダンプトラックをレンタルしている場合が多いため、その確保の時間を考慮しているためですが、今年度は業者との連絡体制を見直して、準備体制が迅速に行えるよう、より具体的な作業指示を行うことにしました。

作業短縮へ工区・路線を一部変更

また、工区・路線の見直しを行い、作業時間の短縮を図って、桜川地区の工区分割や幹線・補助幹線の一部を変更しました。

業者専用として運用開始した浜町緑地雪処理施設。雪捨てに伴うごみ・土砂の海洋流出を防ぐ。

雪捨て場についても見直しを行い、浜町緑地雪処理施設が完成したことから、業者用に雪処理施設として今年度から運用を開始します。市民はこれまでどおり、堤埠頭、沖館埠頭、油川埠頭、大矢沢、八重田浄化センター内に雪を捨てることができます。また、効率よく排雪を行うため、鶴ヶ坂と野内の雪捨て場の位置を変えました。

公園への雪寄せはルールを守って

市民の雪寄せ場として開放している公園等に雪寄せする場合は①遊具、ベンチなどの破損防止のため、それらの上や周辺に雪をおかない（遊具などには竹竿などの目印がある）②雪寄せはスノーダンプやそりなど人力で運ぶ。トラックでの雪の持ち込みや除雪機械での雪捨てはしない③雪下ろしした屋根雪などの大量の雪寄せはやめる④公園等に寄せられた雪は、園内がいっぱいになっても排雪しない⑤道路への滑落などケガをしないように利用する―ように協力をお願いしたい。

雪対策や高齢者支援のため青森市ボランティアポイント制度を創設（ためたポイント数に応じ、商品券や市営バスのバスカードと交換できる）、平成29年10月１日から実施している。

「青森市市民とともに進める雪処理に関する条例」について、①道路にみだりに雪を出さない②河川への投雪で、流水に支障を及ぼさない③建築物等を新設するときは、道路等への落雪による被害がないようにする④路上駐車で、除排雪作業に支障を及ぼさない―ようにしてほしい。これらのことが守られない悪質な場合には、勧告を行なうことにしています。

後継者の確保が課題

福祉部会　市・民児協と意見交換

市町連、市、市民生委員児童委員協議会（民児協）の３者懇談会が10月５日（木）、青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）で開かれ、町会と民生委員児童委員との連携、民生委員選任の課題などについて意見を交換しました。

市町連、市、市民児協懇談会で意見交換する出席者

懇談会には市町連の加川幸男会長はじめ福祉部会から９人、市からは能代谷潤治福祉部長ら５人、民児協から工藤昭会長ら６人が出席、はじめに市町連が現在の組織の状況、今年度の事業計画の説明を行い、民児協が現在の委員の状況、今年度の重点活動、各部会の研修内容などを紹介しました。

次いで、町会と民生委員との連携や、現在、市内42地区民児協の委員が、定数658人に対して在任数は620人で38人の欠員になっている問題、委員の定年を75歳から78歳に延長して対応していても後継者の確保が難しくなっている問題について、堤町町会から「民生委員は自動的に町会役員になることにし、双方の状況を共有出来るようになっている。後任についても双方が連絡を取り合い、民生委員にも探してもらっている」と取り組みの紹介があり、市から「後継者の確保はどこの町会でも問題になっているが特効薬は見つけられないのが実情。個人的な考え方だが、行政経験がある市職員ＯＢを現役時代からお願いしていくとか、10月にスタートした市のボランティアポイント制度を契機にボランティア活動を行う人材の育成、確保を目指したい」と考え方が示されました。出席者からは、「１人年間４万５千円の活動費は少ないのでないか」「地区によって１人の民生委員が担当する人員に差があるのでないか」「仕事量の多寡は、民生委員の取り組み方にもよるかもしれない」「民生委員の選任は町会長が市に推薦して行なわれる。適当な人を町会長に連絡したが、町会長が個人的な感情から市への推薦を断ったケースがあった。感情的なものはなくしてほしい」という意見がありました。ほかにも「今後、活動費の増額、78歳の定年をさらに延長する可能性は」という質問があり、市は「活動費は国の基準によっている。財政的な余裕があれば、市が独自に増額することも可能だが、現状は難しい。町会長に定年を設けていないように、気力、体力があれば出来るので、将来的にはありうる」と話しました。そして、市のボランティアポイント制度について、制度の流れ、活動内容についての説明がありました（同制度の問い合わせ先：市福祉政策課、電話734-5313または市ボランティアセンター、電話723-1340）。

青森市表彰　４町会長が受賞

平成29年度青森市表彰の表彰式が10月30日（月）、ホテル青森で行われ、長年にわたり町会長として市政に協力し、地方自治の振興発展に貢献された次の４氏が、地方自治功労で表彰されました。（敬称略）

三浦　幸雄（妙見第一町会長）
工藤　健二（長島町会長）
倉内　一長（岡部町会長）
髙崎　國治（浜町町会長）

５地域協議会の研修会

29年度の地域協議会ごとの町会長研修会・意見交換会が下表のとおり開かれました。

地域協議会名	会場・日時	研修テーマ
南部	ホテルクラウンパレス青森 10月11日(水)	介護サービスの解説 薬の上手な服用について
中部	ふれあいの館 10月24日(火)	地域の学校問題
西部	沖館市民センター 11月25日(土)	介護予防と生活支援について 危機管理・地区別防災カルテについて
東部	リンクステーションホール青森 11月30日(木)	薬局・薬剤師の活用方法 気をつけたい薬の飲み方 日本食の変化について
北部	油川市民センター 12月18日(月)	町会運営の参考として ごみ減量化モデル交付金申請書について

第40回町内女性の集い
「あおもり、再生。」
市長が「まちづくり」を紹介

市町連女性部会は11月９日（木）、アピオあおもりで「第40回町内女性の集い」を開き、204人が参加、小野寺晃彦市長＝写真＝が「青森市のまちづくりについて」のテーマで講演し、「あおもり、再生。」をキャッチフレーズに取り組んでいる市政の事業、現状を紹介しました。

小野寺市長は、まず、緊急課題に対応した「まち創り」として①窓口に来訪する市民の利便性向上②市役所整備費の７割圧縮③青森駅前の賑わい再生―の一石三鳥をねらって①青森駅周辺の整備を進めて地区の東西アクセス向上を図る②新市庁舎の規模を３階程度にして事業費を当初計画した100億円から３分の１に圧縮する③駅前のアウガに市の窓口を移転・集約する―ことに決め、早速計画に着手、その結果１月にアウガ総合窓口がオープン、2020年に市役所新庁舎、2020年度末に青森駅自由通路がオープンする予定であることを紹介しました。

次いで、市政が取り組む分野を①しごと創り②ひと創り③まち創り④やさしい街⑤つよい街⑥かがやく街―の６つのキーワードにし、それぞれに事業をスタートさせたことを紹介、特に「まち創り」「やさしい街」についての事業内容を具体的に説明しました。

地域の個性を活かし「まち創り」

「まち創り」では①地域の個性を活かすことを眼目に、市民のニーズ、地域の課題を把握して、市政運営の参考にするため「あおもりタウンミーティング」を設けた。すでに７割以上の地区連合町会、地域協議会とミーティングを実施しており、年度内には一巡する。そこで出された要望にはすでに応えたものもある②年に5,000万円の予算額を特別枠で設け、町会所有の市民館、公民館等へ１施設あたり25万円を限度に修繕費用等の支援を始めた③住民、団体などが一緒になって地域の特性を活かした特色あるまちづくりを行うために「地区まちづくり協議会」の設立が進み、現在は荒川、油川、三内、原別、幸畑、横内、新城、妙見、浅虫の９地区で活動している―ことを紹介しました。

204人が出席して開かれた第40回町内女性の集い

高齢者の元気アップへ「やさしい街」

「やさしい街」では①医療・介護・福祉の分野が連携し、住みなれた地域で暮らせるよう、「地域包括ケア」の取り組みを加速させ、高齢者の介護予防のために元気アップサポート事業とボランティアポイント事業を始めた②バス利用者の風、雨、雪対策としてバス待合所を新設（年10カ所程度）、老朽化したバス待合所の改善・修繕（年20カ所程度）、屋根のみのバス待合所に風対策として防風パネルの設置（年５カ所程度）を進める。また、大きく見やすい文字表記のバス停標識設置（年15カ所程度。うち他言語表記は20カ所程度）、経営改善にバス待合所等に企業広告スペースを確保する。この事業にはＮＴＴからも協力いただいている③青森市民病院、青森市立浪岡病院は、平成27年度にそれぞれ２億円以上の資金不足となっていることから、地域医療の再生ために、有識者会議を開き、大車輪で議論を進めている―ことを説明しました。

また、①男女共同参画社会実現のための意識改革・理解促進②男女共同参画の視点に立った行動改革③労働環境における男女共同参画の促進―などを定める「青森市男女共同参画推進条例（案）」を制定する考えも示しました。そして、「青森市は元々港を中心に発展、港町・商都として進取の気性に富んだ街であり、県域の中央に位置する県都である。ぜひ、青森市を、挑戦を誇れる街にしていきたい」と抱負を語りました。

「がん検診を受けよう」

町会女性（婦人）部役員研修会

市町連女性部会は９月26日（火）、アピオあおもりで町会女性（婦人）部役員研修会を開き、62人が出席、青森市保健所の野村由美子所長＝**写真**＝が、「がん検診のすすめ」のテーマで講演し、がんの早期発見、早期対応の必要性を訴えました。

野村所長は、「青森市民の主な死因はがん、心臓病、脳卒中、肺炎の順で、特に、がんは死因の４割近くを占めており、しかも年々増加傾向にある。がんの部位別では肺、大腸、胃のがんで亡くなる人が多く、がんで亡くなる人の約半数を占めている」と青森市民の状況を示しました。そして、がんができるのは、タバコ、紫外線などの発がん要因が遺伝子の突然変異を引き起こすためと説明し、喫煙者本人だけでなく、受動喫煙がいかにがん死亡リスクを高めているか、全身へ影響を及ぼしているかを示すデータを紹介しました。

次いで、健康寿命を延ばすために青森市が取り組んでいる①がんの早期発見・早期対応のため、がん検診の呼びかけ②糖尿病の予防、重症化予防のために検診、運動、健康的な食生活の習慣化推進③タバコの健康被害を防ぐため禁煙の呼びかけ―について紹介、集団検診の種類、対象者などについて案内しました。そして、「がんはだれでもかかる疾患。禁煙し、食生活を見直してほしい。検診を受けて早めに対応し、精密検査の場合は必ず受診してほしい」と呼びかけました。

また、26日が結核予防週間（９月24日～30日）中に当たるということで、結核について取り上げ、「結核は結核菌による感染症であり、咳やくしゃみで飛び散る結核菌を吸うことでうつるが、感染しても発病するのは約10％で、約90％は発病しない。結核は治療が確立していて、治癒可能である。しかし乳幼児、高齢者、糖尿病患者など免疫の低い人が発病しやすい。予防法としては①休養を十分とる②適度に運動をする③バランスのとれた食事をする④咳、微熱、倦怠感が長引いたら医療機関を受診する―ことが大事」と話しました。

共助で自助も進める

29年度理事研修会

市町連は12月１日（金）、ラ・プラス青い森で平成29年度理事研修会を開き、市危機管理課の伊藤陽一郎さん＝**写真**＝を講師に、出席した37人が、大災害時における町会の対応、事前対策などについて研修しました。

伊藤さんは、はじめに地震、台風など日本の災害の特徴、過去の青森市で発生した災害の特色、青森市の入内断層を発生源とする地震の災害リスクなどを紹介、大地震発生時の対応について「自助、共助、公助があるが、半数以上の人が自助が出来ない現実がある 。そのため共助を使って、自助を進めることが大事になっている」と話し、その具体的な活動として「平常時に、地域の安全点検、避難場所の確認・点検、住民への防災知識の普及、防災訓練など災害に備えた取り組みが必要だ」と述べました。そして、災害に対する備えとして「予防・抑止に、家具の転倒防止など、防災訓練や行事等を通じて周知を図ってほしい」と訴え、各世帯の安否確認、避難の有無の確認を効率よく行なうため、「無事です」と書いた黄色旗を配布し、災害時には、よく見える場所に掲げることを取り決めている町の例を紹介しました。

出席者からは①訓練で、体育館などに避難所を開設、運営方法などの指導をうけたい場合、どこに連絡すればよいか②大災害時、避難所に指定されている学校や体育館へ行っても、施錠され入れない場合がありうる。市の職員が避難所にかけつけて、その安全確認をしてから入るまでには相当の時間がかかる。緊急時には町会の責任者も施設の開錠が出来るようにするなど、地域に合った対応をしてほしい―と質問や要望がありました。

住民主役で観光復興

青函ツインシティ交流研修会

青森・函館両市町会連合会（市町連）は10月25日（水）、平成29年度青森・函館ツインシティ交流研修会を「ウェディングプラザ　アラスカ」で開き、青森側から34人、函館側から25人が出席、「観光振興について（温泉街の活性化）」をテーマに、意見を交換しました。

59人が出席した青函ツインシティ交流研修会

青森市町連の加川幸男会長、函館市町連の新谷則会長のあいさつ、両市町連からの出席者紹介の後、浅虫町会の山﨑光治町会長＝写真＝が「浅虫温泉の活性化」のテーマで基調報告、浅虫地区の人口動態、旅館・保養所軒数の推移、活性化へ向けた新たな取り組みを紹介しました。

浅虫地区は、温泉のまちとして栄え、昭和50年（1975年）には人口が3,500人を超えていましたが、42年後の平成29年４月には1,300人を割るまでに減少、そのうち約50％を65歳以上の高齢者が占めます。また、０～15歳の人口は８％弱の状態になり、小・中学校は他地区の小・中学校に統合されて児童・生徒はスクールバスで通学しています。昭和45年（1970年）には58軒あった旅館・保養所も平成28年には15軒にまで減り、年間の入湯者数も約33万６千人から約16万１千人へと半減しました。こうした現状を踏まえ、平成29年、地区連合町会、旅館組合、観光協会等が一緒になり「浅虫地区まちづくり協議会」を設立、医療・介護が安心して受けられる高齢者・移住者向け住宅をつくることで移住を支援する、温泉を活用した農業等を振興するなど、浅虫温泉の特性を活かし、地域住民が主役のコミュニティ形成に取り組みはじめました。

函館側からは宮古久史理事が、リーダー人材育成研修で、多くの観光サービス先進地を訪ねた体験から「浅虫は、ホテル、旅館が飲食、土産をすべて抱え込んでいるため、居酒屋、土産店がなくなり、町が暗くて、魅力をあまり感じない。湯の川温泉も同じような状況にある。函館は外国人に人気があるが、多くはベイエリアに出来た中央資本のホテルに泊まる。この地区は居酒屋に補助金を出して、観光客が地元の人と交流できる雰囲気づくりに努めているので賑わいがある。浅虫も考え方を変えて、独自のグルメ、神霊スポット、縁結びスポットなどを作り、若い人たちにもアピールするようにしたらいいのでないか」と問題提起しました。他にも出席者から「青森・函館間は新幹線で１時間。青森・函館を一体の観光圏ととらえることが必要」「浅虫にしかないものを売り出すようにすべき」「津軽弁もひとつの魅力になる」「いまはＳＮＳで何でも世界中に発信できる。浅虫の魅力が知られていないと思う。ＳＮＳをもっと活用すべき」「青森・函館は縄文遺跡が多い。世界遺産に登録されれば外国人も多くなり、交流人口が増える」など多くの意見が出されました。

事務所がアウガに移転

青森市町会連合会は、青森市役所窓口機能のアウガ移転に伴い、事務所をアウガ４階に11月13日（月）移転しました。新住所等は次の通りです。

新　住　所：〒030-0801　青森市新町1丁目3-7
青森市役所駅前庁舎（アウガ）４階
電話番号：017－734－2484
ＦＡＸ番号：017－734－2587
※電話番号・ＦＡＸ番号は従前と変わりません。

◉　編　集　後　記　◉

ボクシングでいえば、１ラウンド開始早々に強烈なパンチを食らったようなものだ。11月21日に積雪が一時37センチにもなった。雪国といえども、社会の活動を止めることはできない。思わぬドカ雪に市の当局者もあわてたことと思う。この冬の雪の量はどうだろうか、ＡＩは雪問題を解決してくれるだろうか。あれこれ思いながら、春が来るのを待っています。（千）